

第2章 目指す環境像と将来像，基本目標

第1節 目指す環境像

竹原市では、第1次計画において、望ましい環境像「山，川，海，自然と調和した美しい文化の町 たけはら」と設定し、各種施策に取り組んできました。

その結果、第1次計画で掲げた目標のうち、多くの項目で達成できており、良好な環境が保たれているといえます。

しかしながら、大気質や騒音，廃棄物の項目の一部で未達成なものがあり、また、ごみ排出量の削減やリサイクル率の向上など、改善が必要な項目があります。

また、近年、急激な気候変動など地球温暖化に代表される環境問題に対する世界的な関心の高まりや循環型社会の形成に向けた機運のさらなる高まりを踏まえ、地球規模の環境問題に対して、市民一人一人が身近なことから取り組めるような行動やライフスタイルの提示など、竹原市が貢献できる取組を強化する必要があります。

こうした背景を踏まえ、本計画では、第1次計画の取組をより強力に、より積極的に推進するため、受動的な「望ましい環境像」から能動的な「目指す環境像」に変更したうえで、次の「目指す環境像」を掲げます。

◇目指す環境像

海、川、山、空、あでやかに、竹原市。

近年、地球温暖化が原因と考えられるゲリラ豪雨やスーパー台風，猛暑，大寒波による豪雪など，大規模な災害につながる急激な気温変化により，国民の安全，安心な生活が脅かされることはもちろん，我が国固有の四季を感じにくくなってきています。

竹原市には，海・川・山・空の美しい自然と，その自然と調和したまちの美しい風景があり，春夏秋冬それぞれ違った表情を見せてくれています。

そんな四季折々に移ろう竹原市の上品で美しい自然，風景を「あでやか」で表現し，このあでやかな自然，風景をいつまでも変わることなく，次世代に引き継いでいきたい。

竹原市は，そんな美しい環境を未来へつなぐために市民・事業者など竹原市にかかわるすべての人々が一丸となって環境を思いやり積極的に行動するまちを目指します。

第2節 将来像と基本目標・SDGsへの貢献

目指す環境像「海、川、山、空、あでやかに、竹原市。」をさらに見える化するために、本市が目指すべきまちの姿を4つの「将来像」として掲げます。

また、これらの「将来像」を実現するために「基本目標」を4つ設定し、この基本目標の達成状況を計るための「成果指標」を設定します。

この成果指標で現状を把握しながら、基本目標を達成するための施策を推進して将来像の具現化を図ることにより、目指す環境像「海、川、山、空、あでやかに、竹原市。」の実現を目指します。

なお、この基本目標を達成するために各施策を推進することは、平成27年国連サミット採択の「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げる17の持続可能な開発目標（SDGs）のうち、関連する開発目標の達成に貢献します。

【本計画の推進により、達成に貢献するSDGsの開発目標】



将来像と基本目標

将来像1【生活環境】

きれいな水・土・大気と生きるまち

これまでの下水道整備や合併処理浄化槽設置の推進，土壤汚染に関する県との情報共有，大気汚染防止法に基づき工場・事業所等からのばい煙排出基準の遵守の徹底を図るなどの取組により，公共用水域（賀茂川流域，燧灘北西部）の水質測定，土壤のダイオキシン測定，降下ばいじん等大気測定のいずれも，環境基準を達成していますが，光化学オキシダント測定値については，環境基準を達成できていません。

環境基準を達成できているものについては，維持するとともに，達成できていないものは，改善を図り，きれいな水・土・大気のもと，市民が健康で快適な生活が送れるよう次の基本目標を掲げます。

基本目標1

水質・土壌・大気的环境基準が守られている

成果指標

成果指標名	現在値 (平成30年度)	目標 (令和12年度)
賀茂川（朝日橋）のBOD75%値	1.1mg/l	環境基準値（2.0mg/l）以下
燧灘北西部のCOD75%値	1.6mg/l	環境基準値（2.0mg/l）以下
土壤のダイオキシン（仁賀小）	0.06pg-TEQ/g	環境基準値（1000pg-TEQ/g）以下
大気質（SO ₂ ，NO ₂ ） （竹原高校）	0.003ppm（SO ₂ ） 0.017ppm（NO ₂ ）	環境基準値（0.04ppm）以下 環境基準値（0.10ppm）以下
光化学オキシダント （昼間の1時間の最高値）	0.102ppm	環境基準値（0.06ppm）以下
浄化槽の法定検査受検率	60%	76.4%

貢献するゴール（SDGs）



将来像2【自然環境】

海・川・山、豊かな自然とふれあえるまち

市民や事業者などが協力して、賀茂川清掃や的場海水浴場などのボランティア清掃、竹原市公衆衛生推進協議会の支援を通じた地域の美化活動により、身近なところでの環境美化に関する市民意識も向上しています。

また、市内の沿岸域には、「自然海浜保全地区」としての長浜地区をはじめ、自然のまま残る水辺空間や藻場・干潟などの豊かな自然環境が多くあり、豊かな瀬戸内海を維持するためにも、これらの環境を保全していく必要があります。

耕作放棄地が増加すると人間の生活圏と野生動物の生息圏が曖昧になり有害鳥獣による被害の増加が懸念されます。同様に里山環境が良好に保たれていない場合にも野生動物の人間の生活圏への進出が懸念されます。

さらに、近年はヒアリ等の特定外来生物の国外からの侵入も危惧されており、国、県と協力して情報共有を図り、外来生物の定着を防ぐ必要があります。

市民が、本市が持つ海、川、山など豊かな自然と安全に安心してふれあうことができるよう次の基本目標を掲げます。

基本目標2

自然環境が適切に保護され自然とのふれあいの場がある

成果指標

成果指標名	現在値 (令和元年度)	目標 (令和12年度)
有害鳥獣捕獲件数	1,065件	1,120件
大久野島への来島者数 ^{※1}	288,674人	333,950人
清掃ボランティア実施件数 ^{※2}	57件	65件以上
自然海浜保全地区の維持(長浜)	1箇所	1箇所

※1 集計期間はH31年1月～12月

※2 指定ごみ袋認定シールの配布件数等から計数

貢献するゴール(SDGs)



将来像 3 【快適環境】

誰もが生きやすく、住みよいまち

これまで指定ごみ袋の導入などごみの分別化を推進し、ごみの減量化を図ってきましたが、一人一日当たりごみ排出量は広島県平均より多い状況であり、一般廃棄物のリサイクル率も県平均より低く、ごみ処分の費用面においても改善が必要です。

道路交通騒音については、高齢化や人口減少にともなう交通量の減少による低減が予測される一方で、高齢者の外出機会の確保などの問題へ対処する必要があります。公共交通機関の充実など交通弱者へ配慮したまちづくりが求められます。

これら問題の解決を図りながら、限りある資源を大切にし、誰もが住み心地よい持続可能なまちとするために、次の基本目標を掲げます。

基本目標 3

生活の基盤が整備され、清潔で快適に暮らせる

成果指標

成果指標名	現在値 (平成30年度)	目標 (令和12年度)
一人一日当たりのごみ排出量	916g/人・日	869g/人・日
一般廃棄物のリサイクル率	11.7%	26.0%
不法投棄件数	9件	3件以下
環境・道路交通騒音の環境基準適合	1地点を除き適合	現状と同等以上

貢献するゴール(SDGs)



将来像4【地球環境】

地球環境を思いやるまち

地球温暖化に代表される気候変動や、マイクロプラスチックなどの廃棄物問題といった地球規模の環境問題は、エネルギーの大量消費や廃棄物の不適正な処理など私たち一人一人の日常生活に起因するものも少なくありません。

市民アンケートの結果からも地球温暖化に対する関心は非常に高く、この関心を地球環境の保全に寄与する積極的な行動に変えていくことが必要です。

竹原市としても、市内事業者の見本となるよう、公共施設の二酸化炭素排出量の低減に取り組むなどの施策が必要です。

これらを踏まえて、地球環境問題について竹原市として貢献するために、次の基本目標を掲げます。

基本目標4

省資源・省エネルギーを推進し、地球環境の保全に貢献する

成果指標

成果指標名	現在値 (令和元年度)	目標 (令和12年度)
環境学習教材の作成（小4～小6対象）	—	1
公共施設の二酸化炭素排出量*	258.6t	230.2t

※電気使用料から算出

貢献するゴール（SDGs）



海、山、川、空、あでやかに、竹原市。

将来像

将来像1
きれいな水・土・大気と
生きるまち

将来像2
海・山・川，豊かな自然と
ふれあえるまち

将来像3
誰もが生きやすく，
住みよいまち

将来像4
地球環境を思いやるまち

